日本自動車史の資料的研究　第5報

大　須　賀　和　美

第5回内国勧業博覧会の出品自動車等について

本件については，論叢第7号（1977年）にて第1報中にとり上げたものであるが，その出品自動車中，参考館「ANDREWS AND GEORGE BUILDING」については，農商務省の公式報告書にも不明確で，当時発行された英文ガイドブックや写真集により研究し，一部推察を加えて報告した。その後，この不明確な出品自動車の資料を追究し続け，ここに確認資料を見つけることができたので報告する。

この博覧会は，既報のごとく1903年（明治36）3月1日より7月末日までの5か月間大阪にて開催されたもので，日本の大衆に初めて自動車という文明の利器を紹介した催しとして，日本自動車史上重要な史実となっている。この詳細は，地元大阪の日刊紙「大阪朝日新聞」に「博覧会附録」として，5か月間毎日数ページづつ報ぜられていた。この附録の中に，記者が直接見聞した「自動車」に関するものがあるので，日付けを追いながら報告し，間違いなく現認された史実を確認していくことにする。

大阪朝日新聞　博覧会附録

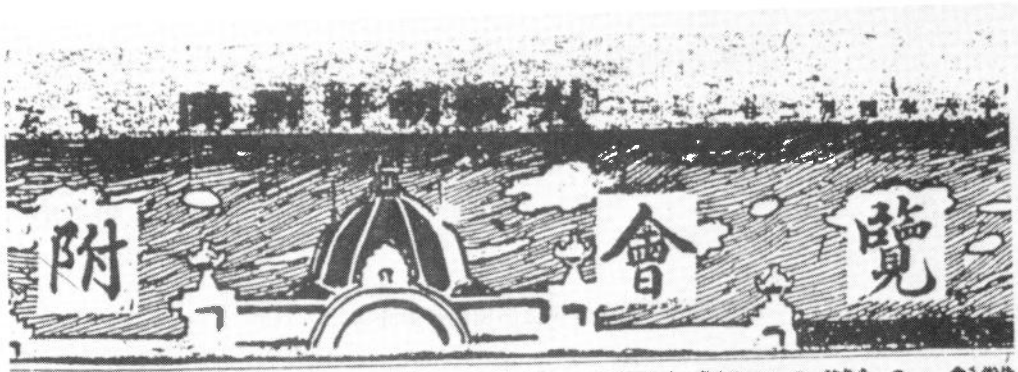
注：原文が旧漢字・旧仮名使いのため，一部現代文字に直したところがあります

○明治36年4月2日付（4月1日記事）（資料1．参照）

く・・・，教育館の東手に参考館別館として横浜アンドリュース・エンド・ヂョルヂ合名会社の建設したる　米国製造陳列所　もけふは事務局への引渡を了り午後公開の運びとなれり，館前にはセメント道を造り入口には日章旗を交叉し屋上には米国旗を飜（ひるが）へし門内にも同じき大国旗を飾り立入りて見れば館内の清々しさ花花しさ言語に絶し陳列のさま配置の形，カナダ館のそれよりも一段立優りて眩（まぶし）きまでの手際の好さは何人も先づ眼を睜（みは）らでやは，通覧の栞（しおり）にもとて入口右手の方より説明すれば

1．蒸気・電気自動車

トレドなるインターナショナル自動車製造会社の出品にして蒸気作用のを二台，電気のを一台陳列せり，ちなみに馬車形の美はしき仕立にして電気のはウェヴァーレー式とし館内東手



勞二枚と求めつゝ朝來霽れそめたる春光を浴びて會場に詰れ集ふ人出の花やかさ、午前十時よりは

協賛會接待所

の開所披露として住友會長、鴨原副會長其他役員たちの紳士は新築の屋舎に集さう樓上階下の各室に趣前の案樣なから受觀を失はざる迄構しつゝ休憩の間には書畫倶樂部の揮毫を求むるもあり賓相サンドヰッチ、菓子、ビールの酒肴饗待に快樂を交ふるもあり、午後はウォーター、シュートに不思議館に動物園に、孤塁陣に餘興のかずくを飽み夜は遊遊の陶見に赴くもあり、教育館の東手に參考館別館として慶應アンドリュース、エンド、ヂョルヤ合名會社の建設したる

米國製造品陳列所

もけふは事務局への引渡を了り午後公開の運びとなれり、館前にはセメント道を造り入口には日章旗を交叉し屋上には米國旗を飜へし門内にも同じき大國旗を飾り立入りて見れば館内の整々しさ花しさ言語に絶し陳列のさま配置の形、加奈陀館のそれよりも一段立優りて眺きまでの手際の好さは何人も先づ眼を瞠らでやは、透寶の樣にもとて入口右手の方より說明すれば

一、　蒸氣、電氣自動車

トレヤなるインターナショナル自動車製造會社の出品にして蒸氣作用のと二臺、電氣のと一臺陳列せり、共に馬車形の美はしき仕立にして電氣のはヴェヴァーレー式とし館内東手に高く木道を架して一隅に之を舞附けあり時々之を館外花手に取附けたる斜面木道に運轉せしめて其實用を示さんとなり

十二、　鋼

附表紙は貴金屬類のゆるく垂れたる前に配列せられ錦もて見張りとしたる函中には美人の彫像と各種懷中時計とを交互置きならべたる意匠のめでたきには立ちも去り難へず、柱時計も其處此處に出陳しあり

六、　ウイスキー

その隣はメンディーのロヨン、ロバートソン、エンド、ソン、ウイスキー醸造會社の製品同じく函中に配陳されたり、正面より歩を轉じて彼の西側に進ければ

二、　發電機及び船舶

ブラッバーグのロヂイヤ發動機製造會社の石油インヂン及びテント附船舶(二噸、十馬力)を出品し船舶運轉の狀を想はしむ

十、　印刷用インキ

シンシンナチーのアルト、ウィボルグ、インキ製造會社の黑ニュース、インキを出品す

十一、　衛生用什器

桑港のヂョルヂ、エッチ、ティ什器製造會社よりは沸湯器(二分間にして温湯を得)冷水温湯シャワーバス、衛生用水具、護謨其他各種を出品し浴槽の美はしさは浴みせざるに先づ身體の淨潔を感せしむ、是にて館の四周を一巡したれば次に館の中央部に移らん

三十、　亞米利加自轉車製造會社

二十七、　ナショナル自轉車製造會社

二十六、　ラレイ自轉車製造會社

二十八、　ウエスト、フォールド自轉車製造會社

二十九、　イーグル自轉車製造會社

以上各社の自轉車は卽ち館の中央部、花壇形に設

十八、　宮

十七、　〃

二十五、　洋

二十三、　〃

七、　洋

以上自轉車の右側に

ルヴァシイア、ルヂ、ソ子ユリー寫眞器製造會社一丁は

ユア、ベル製造會社

造會社の各製品とす

出品の概目略は右のるなるべし、館内の

錄簡竹の盆栽を配し

り、日米兩國旗の柱

く務に注意の見るべ

りの螺旋を捩てゝ之

の及ぶ所にあらず、

は安藤の觀に富み中

へたるは加奈陀館の

たると全く其趣を

して狹きに反し却り

を見るなり

▲山脇事務

一日朝歸京、七日頃

伊藤喜商店

正面入口

（阪百四目、命

東京麻井

登明特許

謄寫版

〔資料１〕明治36年４月２日付，大阪朝日新聞・博覧会附録，第１面

に高く木造を架して一隅に之を据付けあり時々之を**館外北手に取附けたる斜面木道に運転せしめて実用を示さんと**なり……〉

〔確認〕

①　参考館別館は，３月１日の開場に間に合はず，開館がおくれたと報ぜられていたが，アンドリウス館は４月１日に開館したので，３月中の入場者は自動車を見ていないことになる。

②　アンドリウス館の出品自動車は

トレド号（インターナショナル社製）蒸気式……２台
ウェヴァーレー電気式……１台　）計３台である

トレドは"TOLEDO"で，各資料にその名を見ている。ウェヴァーレーは"WAVERLEY ELECTROMOBILE"のことで，この車が展示されたことは，今までのどの史書にもふれられておらず，アメリカの電気自動車として有名であった当時の広告の複刻版を資料として添える。（資料２，参照）この車は記事にもあるように，固定展示されたのみで，試乗はされなかったようだ。

③　最初から自動車を試乗して見せるつもりで，館外に板敷きの木道が作ってあったのは，当時会場の通路などはほ装されていないからである。

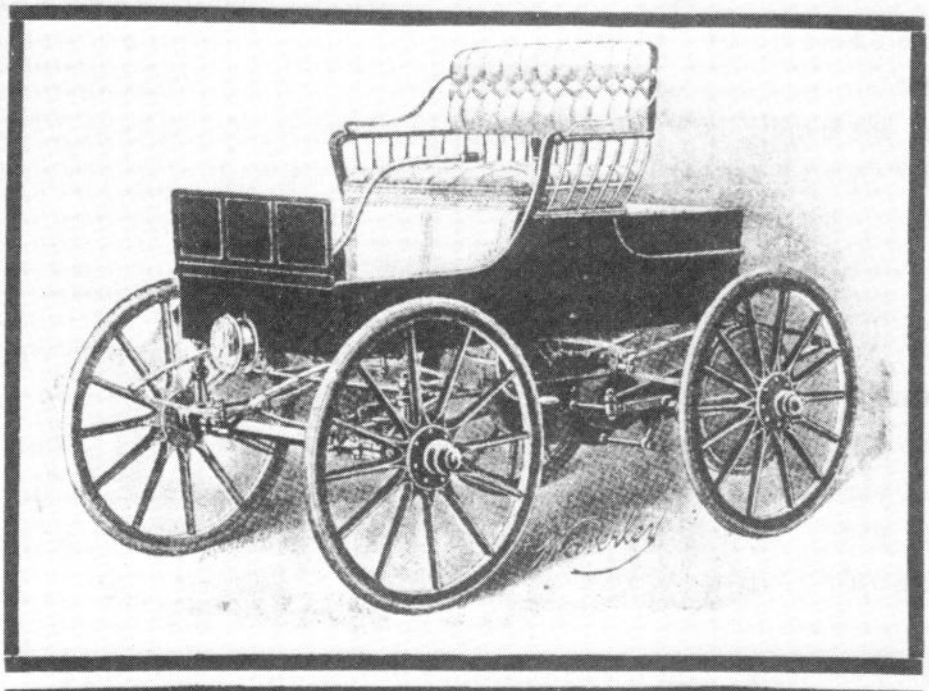
○明治36年５月４日付（５月３日日曜日記事）

▲行　　幸（第６日）

〈……，車駕は先づ，アンドルュース・エンド・ジョーヂ館（米国）に臨ませり。平田副総裁其他，及び館主アンドルュース・ジョージの両氏は，館前に意匠を凝して造りなしたる，花草飾りの紅白テント先に於て奉迎（館内御通路は紅白布を敷連ねたり）し陛下には直に館内入御，先正面右手なるコロンビア印字機使用のさま御覧の上，ニューヨークなる二十世紀洋燈製造会社その他の洋燈，グラスゴーのヂック調帯，ヴィクトル製金庫，サンフランシスコの葡萄酒，冷水ペイント，スタンダード油等御巡覧，正面に美々しく陳列されたるアンソニア会社の時計に御目を留めさせられ，左側に進ませられては，ロヴィア会社の石油インヂン，及び同船舶（長さ三十一呎・十馬力），其他サンフランシスコ製浴具其他自転車陳列等御周覧あらせられ，十一時二十五分御立。其折同館に於て常に人目を集め居れる出品たるトレド製インターナショナル**蒸気自動車**の運転を，館主よりお慰みかたがた天覧に供へんとあるを納れさせられ，テント前にてぞ御観覧を賜ひける。自動車は即ち館前花壇の一角より玉出坂を冷蔵庫前に馳駆し，引返して原位置に来りしまで，その快奔せるさま目覚ましく，乗車使用したる館員ボーン氏は図らざりし面目を施したり。了りて御馬車は冷蔵庫前より西折，渡廊下にて御下乗あり……〉

〔確認〕

①　同館の御観覧は，11時15分～11時25分の10分間の忙しさで，自動車の試乗を御覧になったのも瞬時のことである。



Waverley Electromobile

Model 18.　$1000.

A new departure in electric vehicle construction; light, safe, noiseless, odorless, clean, durable, comfortable, simple in operation. Battery guaranteed for two years. In no other vehicle are all these desirable qualities combined.

Wheels, thirty-four inches
Tires, one and five-eighths inches, solid rubber
Speed, three to sixteen miles per hour
Height of body from ground, twenty-seven inches

We can make prompt shipment of this model. Reliable agents wanted in unoccupied territory. Catalogue illustrating 18 models for two 2c. stamps.

AMERICAN BICYCLE COMPANY
Waverley Factory, Indianapolis, Ind.
NEW YORK SALESROOM - - - 943 EIGHTH AVENUE

〔資料2〕Waverly Electromobile, Those Wonderful Old Automobiles, Bonanza Books, New York より

② 自動車の試乗が，観客の注目を集めていた事実が伺える。

③ 運転手ボーン氏は "Mr. W. C. Vaughan" のことで，各史書にその名を見る。

④ 2台の蒸気自動車は屋内展示されず，試乗用に屋外に出されていたようだ。

○明治36年5月5日付（5月4日月曜日記事）

▲皇后宮行啓（第6日）

〈アンドリウス・ジョージ館にては館内御覧後夫の自動車を玉出坂にて運転し御覧に供へたるため雨中ながら今まで館内に居たる観覧人は　陛下の拝覧と自動車の珍らしきを見んとて四辺に集り来りたるもの一時に湧くが如く一入の雑踏を極めたり〉

▲昨日の行啓（附録第一頁記事の続）

〈アンドルュース・エンド・ジョーヂ館御立の際には三日行幸の折に同じく，トレド自動車使用奔馳のさまを御覧に供へ，御馬車は頓て，ホーン館裏手の処に向ひ，テントの渡廊下にて御下乗，降しきる雨の横しぶきを厭はせ玉はで御徒歩にて，……〉

〔確認〕

① 自動車の試乗入気を裏づける。

○明治36年5月6日付（5月5日火曜日記事）

▲参考館出品人懇親会

〈一昨四日午後六時より平野町の堺卯楼に催されたり来賓には市役所の池原助役，真野審査部長，田中鉱山局長，坂田工学博士其他新聞記者等あり主客合して無慮八十名其内十余名の外国人を加へ一同日本流に席に就きたる工合何となく一種特色ある宴会にして幹事総代たる桐原捨三氏及び米国オレゴン州政府委員ヘンリードッシュ氏開会の辞と真野審査部長の挨拶あり余興は鶴家団十郎一座の二輪加と南北芸者の舞曲数番にして出席の外人中アンドリュースのボーン氏が巧に三味線を弾きたるは余興外の余興として人々喝采し一同歓を尽して散会せしは夜の十時頃なりしが兜ビール会社より同ビール十二ダース，参考館要覧出版所よりは朝日ビール八ダースの寄贈ありし由〉

〔確認〕

① 自動車の運転手として，その名がよくでてくるボーン氏は，相当な日本通であったことが伺える。彼は他の資料などからも推察するに，サイクリスト（Cyclist）として来日し，当時評判の "自転車の曲乗り" で全国を巡業しており，たまたま，アンドリウス会社が自転車販売宣伝の目的で，嘱託として雇用契約をしたのではないかと思はれる。自動車にも熟練している彼が，博覧会場にも派遣され，そのショーマンシップを十分発揮して自動車を乗り回して見せたことは，アンドリウス館の宣伝効果満点であったろう。自動車自体を売るという目的は二の次であったのではないか。

○明治36年5月21日付（5月20日水曜記事）

▲大阪と堺

〈雨ならば引込み，晴るれば群集する，正直なる人間は，きのふの雨後の場内に影多からず，けふは日和を見込みて朝来絡駅として至り，各館内の肩摩踵接したるぞ流石は博覧会らしき。博覧会観覧者の多くは，本会場を堺の附属水族館に結び付けて，一日の間に兼ね併せ観るの便宜は存せざるべし，汽車の便は彼が如くなれど，終日本会場を見草疲れたる上，汽車に客として堺まで遠出なさんは，少々大儀といふの外なく所詮水族館は日をかへて別に観覧せざるを得ざるべく，龍を得て蜀の望まれぬもさることながら，予は，昨十九日の夕陽，正門のあなたにかくろひて入場者は皆々イルミ不ーションの美観まつ間に，かのアンドルュース・エンド・ジョーチ館に出陳せられ，行幸啓のをり，館前に於て其奔馳のさまを，畏き辺りの御観覧に供へまつりし，米国トレド製の自動車に乗りて，朝来場内の観察に疲れたる心目を一転せん為水族館行きを試みたりしぞ愉快なる。

さきに館主の一人ジョージ氏の来合はし，折，氏は同館を見舞へりし予をすゝめて自動車に乗りボーン氏の操縦によりて一再同館背面の斜道よりかけて館の四周を走らしめたりき。縦てば一瞬電馳の心地好き，操れば忽焉静止する手際の巧さ，いひ知らず面白かりければ，今一たび此車に藉りて遠乗せばやとて，さてはあながちボーン氏をそゝのかせしに，そこは外人の気の軽さ，サア今から行きませう。

取るものもとり敢ず，事務局門内より飛び乗る，出張の税関鑑定補萩谷源治郎氏と愚僊子と一行四人の定員，石油の火勢盛んに機械を働かせて，四輪のゴム張音もせず，滑るが如くに逢坂通を住吉街道に曲りしは**午後五時二十分**。

昔の火の車には罪劫重き亡者を乗せ，今の火の車は優哉遊哉水族館見物の閑人乗る。スイと走りてスイと止まる。風を切ること燕の如く，機投ぐる間の往く手の人がヤアと目を聳てゝ迎送する驚きの状よりも，ワンワンと吠立てつゝ尻尾を低れてげき走する犬のうろたへ方，人力車や前輓車の泡喰って右に避け左に逃ぐる塩梅は，気の毒にはあれど可笑しさ悚へられず。砥よりも坦かなる住吉街道を飛ぶより迅き自動車の天下茶屋に入りしは**五時二十九分**。

緑翠ふかき丘の色，麦畦遠き阿部野の風物，雨後のながめ愛でたるが，木津川尻の落暉にうつろひて，一往情深，岸の姫松の青あらし早や車上に現はれ，住吉の高燈籠を直角に見やりしは**五時三十五分**。

濁流滔々と大和川には水嵩まさり，車体の速力さへいよゝ加はり，長き町筋に怠屈せしむる安立町もいつの間にか奔過して，堺の大小路に乗り進み，大浜通りをうねりて水族館の門前，しなびたる赤葉の緑門に車を止めしは五時四十二分。

館内を見物するは今日に限らず，車上の乗心地を験するこそ急務なれば，やがて引返さんず気の勇橋を堺駅に出で，一寸休みて六時十五分に轍を回し，大小路より一路疾く博覧会正門前に帰り着きしは**六時三十五分**。

▲七十三名の研究者

府下中等以上の諸學校並に教育各團體は就れも一團體二名即ち總數七十三名をして十日を期し博覽會に就きて諸種の研究をなさしむる事とし事務局よりも相應の便宜を與へることゝなり居れるが昨今追々其入場を見るに至り中には有益の調査をなしたるもある由又其結果は一般教育者の知らんと欲する所なれば府教育會は特に乞うて之を雜誌に登載すべしといふ

▲豚

茨城縣農會長田宮亮太郎氏の場内動物館へ出品せる英國バークシャー種は顔短く兩眼の間廣く頸も短くして肉多く、脊は廣くして水平に巻く仔豚を哺育し巻殖力尤も強く歐米諸國に於ても農家の副業として盛に飼養せられ居れりと

博覽會畫報

アメリウス館の自動車

〔資料３〕明治36年５月21日付，大阪朝日新聞・博覧会附録・第１面・挿画

大阪と堺とを結び付けたるこの一転瞬，自転車の流行に今や一弾をあびせ掛けんとする自動車の魔力は，確かに輪界の一大転機をや産み出さん。

と昨日の行楽の轍の迹，けさも事務局前に乗りすてられし自動車の，ソンナ顔もせず静かに車輪を止めたるを見れば，我も車上の客として水族館に行きしかを訝るばかりの夢心地を，筆にまかせて走り書にす。（好尚子）

〔確認〕

①　この記事は、日本での自動車試乗記事として最も古いものではないかと思う。

②　大阪の南端四天王寺にあった博覧会場から，堺までを小休止を入れて1時間15分ぐらいで往復しているのは，相当なスピードで，初めて疾走する自動車に出会った人々の驚きの模様がよく判ると同時に，車上の記者のうぬぼれが伺える。

③　添布〝資料3〟は，同記事の挿画で，上部右の枠内は大阪の博覧会場を，左の枠内は堺の水族館を表しており，運転しているのはボーン氏で，その横の口ひげの男が記者だろう。

○明治36年5月29日付（5月28日木曜記事）

▲東宮行啓（別項記事の続）

〈……。午後一時二十分別項ウオーター・シュート御観覧を了へさせせられ，住友家別邸より御馬車にて有栖川宮御同乗，台湾館庭園東手（新場内）に特設したる門より御入場　**アンドリュース館**に入らせられる。同館にては館主代理ボーン氏以下事務員入口に御出迎申上げ，両陛下には御会釈を賜ひつゝ右側より順次御通覧，特にボーン氏に命じて印字機を使用せしめ御覧あり，氏は謹んで両殿下奉迎文の半を草したるに，有栖川宮には親しく其印字を御手にせられ御黙読あり，東宮にも其出来栄を賞でさせせられ，御笑を漏らせられたり。又新着の自動ピアノの面白き曲を御聴に達し，妃殿下にはいと楽しませられ，其間東宮にはトレド自動車の機械操縦と御熟覧あり。やがて西側に設けたる新廊下より……〉

〔確認〕

①　東宮両殿下とは，のちの大正天皇ご夫妻のことで，ご成婚の1900年(明治33)には，サンフランシスコの在米日本人団より電気自動車を献上した件で，自動車史上関係深い方。

②　天皇・皇后の行幸啓の時と違い，館主たちはおらず，軽く扱はれた感じ。その後皇族方の観覧が続くが，特に自動車を試乗して見せた記事はない。

○明治36年6月10日

▲自動車の事

〈不経済なる馬車，単調なる自動車に代り欧米諸国に於て目下新流行の盛を唱ふる自動車は夫のアンドルュース館内なるトレド製のと参考館に於けるコン子クチカット州ブリッヂ・ポートのロコモビル会社（東京横浜に代理店あり）の蒸気自動車（四台）の出品を以て其評判を

想像するに止まれり，同社の自動車は軍用として近くは南亜戦争にも利用せられたりといふ，英国にては本年一月アール宮にてスタンレー自動車博覧会，二月火晶宮にて同陳列会，三月倫敦市外イズベリングトン街にて同共進会の開設あり，アール宮に於ける博覧会にては米国よりもフレスコット蒸気自動車，オールズモビル及びダーイア石油発動自動車等の出品あり構造機械着々進歩の模様見え運輸界の新面目活目すべきものありと云へり〉

〔確認〕

①　本博覧会の出品自動車のうち，参考館内のロコモービル（Locomobile）４台が再確認できるが，農商務省報告書の出品リストにある，米ブルウル兄弟商会のオールズモビル(Oldsmobile)などは，計画のみで実際は出品されていないと断言してよい。

②　アンドリュース館の出品自動車中，ウエーバリー電気自動車１台とトレドの２台中の１台はその後の記事に一切ふれられていないのは，開館のとき展示したのみで，直後どこかえ持ち出されたものと思う。と言うことは，会期中同館に存在した自動車は，ボーン氏が乗り回していたトレド号１台だけで，展示車はなかったことになる。

③　戦争での自動車利用は，第１次世界大戦が最初であるかの俗説を多く見かけるが，それより10数年も前の南亜戦争（1899～1901年）に既に利用されており，これが本当に最初であろう。

④　英国における自動車の使用を事実上認めなかった，悪名高い「赤旗法」（Red Flag Law）が1896年最終的に廃止され，欧米諸国からの立遅れを急速にとり戻そうとしている英国の様子が伺える。博覧会を訪れた外国人からでもニュースを得たのであろう。フレスコット車は未確認であるが，オールズモビル（Oldsmobile）は1899年より生産に入り，ダーイア（Duryea）は1893年より生産をはじめたアメリカ初期の有名な車で，時代的にもマッチする。

○明治36年６月14日（６月13日土曜日記事）

▲大阪祝日の景況（午後）

自転車行列

〈車夫の同盟罷業に対して或る意味を含める示威運動とにはあらねども昨日第一の練物として最も多くの趣味と光彩とを放ちしは京阪神連合会の自転車行列なり車体の装飾はハンドルに草花を飾りたるを普通とし各人各個諸種多様の趣向を凝す事とて或は家台に或は何に或は彼に奇想妙案手を拍って感ずるあり腹を抱へて笑ふあり乗り手も之に応じて思ひ切ったる意匠を注ぎ甲冑の武者あり裃(かみしも)の文人あり髭むしやの花嫁あり眼鏡かけたる福助あり衣装もとりどりに一向に花を飾り実を添へて一行二百二十名中に万緑叢中一点紅として妙令二八[1]の佳人仮装を避けて海老茶袴に風を膨ませ愛らしき女靴にペタルを踏みつつアンドリュース館の自動車（紅白の布もて飾り日米両国旗を交叉しボーン氏之に乗る）を先頭に午後一時十分頃日本橋筋を一直線に西第二門より場内に練り込み大通路の花壇の周囲を三周したる時には万

ロ一様万才を絶唱したり夫より一行は西手なる動物運動場にて休息し各自随意に飲食して午後四時再び勢揃へをなし其幾分は西第二門より場外に出で北へ向って馳行し又幾分は出るを得ずして止まるもあり〉

〔確認〕

① アンドリュース館の自動車は，前述のとおりボーン氏によりショー的に使用されていたさまがよく判る。

注：1)妙令二八とは，2×8＝16のことで，十六才をあらわす。

む　す　び

以上が「博覧会附録」5か月分全紙を詳細に験べ，自動車に関連する記事を抜すいしたものである。日本の自動車史を資料的に最も詳しく裏づけた「日本自動車工業史稿，(1)明治時代」（自動車工業会編・昭和40年）においても，この博覧会の出品自動車については，大阪市史を引用して，参考館のロコモービル4台と，ブルウル兄弟商会のトレド号，アンドリウス商会のハンバー号などと，記述しているのみで，資料不足と述べられており，戦前からの他の史書も同様である。これは，農商務省の公式記録があいまいなのと、特にアンドリウス館においては，開館時に展示した車をいつの間にか運び去り，ボーン氏が皇族の行幸啓時や，日曜日など観客の多いときのみショー的に試乗してみせたが，これも6月13日（土）の「大阪祝日」までの2か月半ぐらいの間で，梅雨に入り観客も少くなった6月中旬より7月末の閉館までは，新聞記事の話題にも上らず，人目にふれることも少なかったと思われる。この件につき，同学の士の確認を得て，以後正しく伝えられんことを熱望してやまないものである。